

相談室だより No.6



2023.2

こんにちは。スクールカウンセラーの横田です。寒い日が続いていますが、体調はいかがですか？体調がよくない、疲れている、なんとなくだるいという時は、おいしいものを食べて、温かくして、いつもより早めに寝て、身体を休めてくださいね。

今回はここが疲れた時に読むと、自分の気持ちを代弁してくれているように感じる本、寄り添ってもらえるように感じる本、一歩を踏み出すための勇気もらえるかもしれない本を紹介したいと思います。

「雨の降る日は学校に行かない」

相沢沙呼 著 集英社文庫

ちょっとだけ
あらすじ紹介

「ねえ、卵の殻が付いている」(一つめの物語)

六つの物語が
収められてるよ

保健室登校している二人の女の子、ナツとサエの物語です。急に教室に戻ろうと思うと言ったサエに、ナツは「どっか行っちゃえばいい。教室に行っちゃえばいいじゃん。絶対にうまくいきっこないんだから」と言ってしまいます。そんなナツに保健室の長谷部先生は、「教室がまだ怖いところなら、無理をして戻らなくてもいいんだ。でも、サエちゃんにはきちんと謝りに行かなきゃ。」と声をかけます。サエが待つ教室に行ったナツは、サエが転校してしまうことを聞きます。「わたし、このまま消えたくなかった。この学校に通っていたこと、なかったことにするみたいに転校しちゃうのって、なんだか逃げるみたいでしゃくだったから……。だから、最後くらい、ちゃんと教室に行こうって思ったの。」それを聞いたナツは、「あたしも、行く」「無理でも、行く」と言います。サエは戦っているんだと思った。自分に負けないように。逃げたまま終わらせないように。だから、あたしも、そこに行きたかった。それは強がりかもしれない。また脚は震えてすくんでしまうかもしれない。時間がかかるかもしれない。それでもー。

「職員室に給食を取りに行くのって、しんどいじゃん。」「トイレかなにかの用事で教室を抜け出した誰かと、ばったり遭遇する危険だってあるかもしれない。そのときにその子から向けられるだろう奇異の視線を思い浮かべると、それだけで、給食を食べる時間は憂鬱になる。」

「それならどうして、テレビや漫画があって、好きなだけ遊んでいられる自分の部屋から、学校の保健室までわざわざ通うんだろう。」

「廊下を歩きながら、急に気がついた。」「気づいて欲しくて、声をかけて欲しくて、助けて欲しくて。だから、学校に行く。」「あたしのことを、誰かに知って欲しかった。」

ナツの気持ち

「西の魔女が死んだ」

梨木香歩 著 新潮文庫

紹介文より

大好きなおばあちゃんは本物の魔女。生きる力も本物だったー。

中学に進んでまもなく、どうしても学校へ足が向かなくなった少女まいは、季節が初夏へと移り変わるひと月あまりを、西の魔女のもとで過ごした。西の魔女ことママのママ、つまり大好きなおばあちゃんから、まいは魔女の手ほどきを受けるのだが、魔女修行の肝心かなめは、何でも自分で決める、ということだった。喜びも希望も、もちろん幸せも……。

まい「たとえ転校してあのクラスからは抜け出せたにしても、いちばん根本的な問題は解決しないんだよ。だから、何か素直に喜べないのよね。敵前逃亡みたいで、後ろめたいんだ」

おばあちゃん「この場合の根本的な問題は、クラス全体の不安ですからね。クラスみんながそれぞれ不安なんですよ」

まい「でも、わたしの問題もやっぱりあると思う」「わたし、やっぱり弱かったと思う。一匹狼で突っ張る強さを養うか、群れて生きる楽さを選ぶか……」

おばあちゃん「その時々で決めたらどうですか。自分が楽に生きられる場所を求めたからといって、後ろめたくする必要はありませんよ。サボテンは水の中に生える必要はないし、蓮の花は空中では咲かない。シロクマがハワイより北極で生きるほうを選んだからといって、だれがシロクマを責めますか」

おばあちゃん（西の魔女）
の言葉

スクールカウンセラーは**毎週火曜日の13:30～17:30**に來ています
小さなことでも気軽に相談に來てくださいね。待っています！

★保護者の皆さまもどうぞお気軽にご利用ください★

<2月～3月の來校日>

2月 7、14、21、28日

3月 14日

相談したいことがある生徒、保護者の方は山崎先生までお知らせください

学校電話番号 076-241-8404